

第2章 「福祉・ホースセラピーに活用されている馬」

福祉・セラピー

障がい者もスポーツで世界へ挑戦

一般財団法人

明石乗馬協会

パラ馬術とホースセラピーへの取り組み



活動の概要

一般財団法人 明石乗馬協会は、昭和 48 年に明石市の都市公園内で設立され、馬を使って青少年の情操教育と市民への健康増進を目的にスタートした。明石乗馬協会では、乗馬を特殊なスポーツとして扱うのではなく、地域に密着した活動の場として、また馬に慣れ親しんで頂くために活動しており、市民対象の乗馬教室の開催と競技会への参加が活動の中心となっている。

その中で、社会貢献活動として障がい者の乗馬を取り入れ、現在約 30 名の障がい者の方がセラピーや競技を目的に活動を行っている。障がい者乗馬は、セラピーとしてだけでなく、スポーツとしてのパラ馬術（障がい者乗馬活動）として、日本馬術連盟やパラリンピックの正式種目となっている。パラ馬術の選手の育成にも力を入れており、明石乗馬協会所属の選手がアテネパラリンピックや世界選手権に出場するなど活躍している。

昭和 61 年に日本障害者乗馬連盟（現在の一般社団法人 日本障がい者乗馬協会）に加盟し、国内での障がい者乗馬の情報の共有・提供できるよう全国大会を開催するなど、早くから普及活動にも力を入れてきた。当初はセラピー中心の大会でスタートしたが、現在の全国障がい者馬術大会ではジムカーナ競技や初級レベルの種目に知的障がい者が多く出場しており、年に一度のこの大会に出場するために毎週欠かさず練習し、サポートスタッフと共に目標に向け取り組んでいる。

「練習中の騎乗者の真剣なまなざしは、時として驚かされます。また、競技会で 1 位を取れば喜び、取れなければ悔しがると、表情を豊かにしてくれます。そして次回の大会を目指し彼らの活動は続いていきます。これらの活動は馬があつてこそ成立するが、安全で効果的なスキルを行うためには、言うまでもなくおとなしい馬と補助するスタッフの存在が必要。今後もこれらの活動は続けていきたい」とのスタッフの思いがある。



障がい者馬術競技の様子



乗馬レッスンを楽しむ子ども

その他、社会問題となっている不登校、ひきこもり、心の問題を抱える人に対してもホースセラピーを実施している。

地域活動として、老人ホームへのポニー出張も行っており、入居者の方からも、スタッフの方からも大変好評で、皆が笑顔になれる取り組みとなっている。幼稚園・保育所でのポニーの引き馬と馬車を使ったイベントも行っており、毎回子どもたちが楽しみにしてくれている。近隣の祭りでは馬の貸し出しや、流鏝馬などの神事、その他少年団活動や地元自治会イベントへの馬を活用した出張訪問を行っており、多くの方に馬とふれあう機会を提供している。



地域の人達との交流

活動体制

熟練した13名のスタッフと、3~7名のボランティアによって運営されている。馬は内国産馬、外国産馬、軽種馬、中間種、ポニーなど約50頭

を保有しており、利用者の特性や好みに応じて自由な選択が可能になっている。

また、明石乗馬協会には「一般社団法人 日本障がい者乗馬協会」が置かれており、世界との窓口対応のため事務局を設置し、国内外へ情報提供などのサービスを行っている。平成28年7月から公益財団法人日本財団の援助により東京のパラリンピックサポートセンターに職員2名が勤務し、選手強化や情報発信など2020東京パラリンピックの準備を含め幅広く活動を行っている。

施設の概要

施設は、車では阪神高速第2神明大久保インターより5分、電車ではJR西明石駅またはJR大久保駅で下車、無料の送迎を行っている。

背景(地域連携、展望等)

明石乗馬協会では一般の乗馬クラブ活動と共に、社会と地域に貢献し、社会に必要とされる乗馬クラブを目指して活動を続けたいと考えている。

〒674-0053 兵庫県明石市大久保町松陰 1126-47
 (URL) <http://www.ara.fm/>
 (TEL) 078-935-8900

